

ごんげんばら
根元原



かつては水量も豊富であった仁井田川

「ごんげんばら」と読む。四万十町の中では交通の要衝といつてよい。国道56号を高知方面から来ると、十和・大正、さらに宇和島へと向かうにはここで分岐。また、分岐後直ぐのT字路が、船戸方面への松葉川街道の起点にもなっている。

文献によれば、関ヶ原の合戦があった頃からさらに100年前、紀州和歌山の熊野から熊野権現の神霊を迎え入れ、お祀りしたことから「権現原村」とし、のちに「根元原」と書くようになったというのが、地名の由来であるという。

ここは、縄文時代の遺物や古墳時代の祭祀跡などが見つかった根元原遺跡としても知られている。集落の北側に位置する小高い丘の上で見つかったのが縄文時代の遺跡で、後期縄文土器片と共に、この地方では出土しないとされていたタイプの石槍や石斧が出土した。古墳時代の祭祀跡は、集落を流れる仁井田川の川岸から約5mのところで見つかった。

今でこそ、呼坂トンネルをくぐ

ればすぐに窪川の街中に出られるが、以前は峠を越えていた。また、昭和の初期までは仁井田川を渡る橋も無く、現在のような便利な地区ではなかったのだと、地区をよく知る方が教えてくれた。

土讃線と仁井田川に挟まれた道の脇にある数本の杉の木が目印。この根元に、一体のお地藏さんが道に背を向けている。足下の仁井田川に向いているのである。ここに橋が架かるまでは、水量が多かった当時の仁井田川で比較的川幅が狭いこの場所に、工夫を凝らして板を渡し、たわむ板にドキドキしながら渡ったのだという。渡るときに「どうかうまく渡れませうよ」とお地藏さんをお願いをして、無事渡り切ったらお礼を言ったのだそうだ。無事向こう岸まで見渡してくれるので「見渡し地藏さん」と呼ばれた。

ここに橋ができ、さらに松葉川街道が整備され、特に意識することもなく川を渡れる現在、「見渡し地藏さん」はこの地域の安寧を見守ることに、その役割を変えたのである。川に向いているお地藏さんのやや下方への目線は、時代の変遷と共に、いつの間にか地区全体を見渡す目線が上がっていったのではないだろうか。



見渡し地藏さま

町のうごき	(4月30日)		前月比	出生 死亡 転入 転出			
	男	人口		男	女	計	計
	8,945	8,945	-1	4	13	46	38
	10,033	10,033	-7	5	17	40	35
	18,978	18,978	-8	9	30	86	73
	8,783	8,783	24	(4月中の届出)			

四万十川の
水質状況

	適正值(mg/l)	5月9日
リン酸	≤ 5.0	測定値以下
硝酸	≤ 0.5	0.254
アンモニウム	≤ 5.0	測定値以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.350
化学的酸素消費量	≤ 10.0	2.585

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)